

会 議 報 告 書

主催者名	匹見総合支所住民福祉課
会 議 名	平成 25 年度 第 6 回 匹見地域協議会
開催日時	平成 26 年 2 月 21 日（金） 14 時 00 分～17 時 15 分
開催場所	益田市匹見総合支所 集会ホール
出席者	・ 匹見地域協議会委員（10 名） ・ 匹見総合支所：長谷川支所長 住民福祉課：靱田課長、三嶋 地域づくり推進課：村上課長 建設課：露口課長

【協議事項】

(1) 平成 26 年度主要事業について<資料 1 各課長より説明>

- ・ 新年度予算要求状況を説明。

≪ 質疑・意見 ≫

基金について

- 将来基金がなくなったとき、現在基金を財源としている事業をどうするのか、現時点でどのように考えているか聞かせてほしい。
 - ▷ 事業は、基金があるからやる、ないならやらないということではない。事務的にもきちんと引き継ぎ、必要な事業は必要ということで地域として主張していかなければいけないと考えている。ただ、その前に匹見地域独自というところを整理する必要性は感じている。
- 以前市義が「匹見は基金の次は山がある」と言っていた。そういう認識があるということを念頭に、基金の活用は慎重にならなくてはいけないと思う。
- 私は基金はできるだけ早く有効的効果的に使う方がいいと考えている。なくなった時には財産区の処分し、その一部を基金に積むという流れを定例化しておいた方がいいのでは。

人口拡大施策について

- 匹見地域としてどんな施策があるのか。
 - ▷ UI ターン者への助成のうち、中山間地域に定住される方への加算がある。

空き家バンクについて

- 改修費用は所有者？入居者？持ち出しはどうなっている。
 - ▷ 改修費用は入る方が持つケースがほとんど。
- 聞いた話で、貸したい人はいるが、入る方との調整が不安で空き家バンクに登録するのが怖いという人も多いらしいが？
 - ▷ 実際そういったことから空き家バンクの登録が進んでいない。またそれを打開する画期的な方策がないのも現状。
- 改修を業者に頼まずに自身で行った場合の材料費等は助成対象にはならないのか？
 - ▷ それはできない。
- 貸す人入る人、双方にとって何が一番良い方策なのか考える必要がある。堅いことを言わず、柔軟な対応ができるような方向での検討をお願いしたい。

温泉割引料について

- 前回見直しの話が出ていたが、この予算は反映されたものなのか。
 - ▷ 26年度については現在と同じ取扱い。27年4月以降に見直しとなる予定。あわせて、指定管理料のあり方も見直しをかけていく。なお、26年度予算は消費税増税を加味したものとなっている。
- 割引券廃止は知らない住民が多い。以前から決まっていたのか。
 - ▷ 最終的には24年に、合併後10年間で廃止する方針が示された。
- 町民の声としては現状維持をお願いしたい。
 - ▷ なんとかご理解いただける値段設定にはしていきたいという思いはある。
- まだ検討の余地があるのか。
 - ▷ 新たな制度を設ける可能性はゼロではないと思っている。
- 温泉は匹見にとって核。割引券廃止によって町民が利用しなくなり、温泉が潰れるようでは人口拡大も何もない。まだ検討の余地があるなら町民と一緒に何か方策を探ってはどうか。
 - ▷ 現在温泉利用者のうち、町民利用の割合は40%。割引券廃止によってかなりの利用者減があるだろう。このことは経営面から見ても大きな問題。県内の類似施設を参考にしながら、町民の福祉増進施設として機能していけるよう知恵を出していきたい。
- 益田地域にも割引を拡大しては？
 - ▷ そうした方策も含めていろいろなご提案をいただく中で、議論を重ねていきたい。今日は結論を出さずに宿題、継続課題とさせていただきたい。

市有林について

- 今造林はどうなっているのか。
 - ▷ 現在9人の造林班で進めているが、新規契約の可能性もあり、採用募集をかけていきたいと考えている。

【報告事項】

(1) 地域魅力化プロジェクト事業について

- ・ 事業概要説明

《 質疑・意見 》

- そもそも応援隊員はどんな仕事をしていた人たちなのか。
 - ▷ 地域の事業のお手伝いなどをしていた。
- 最初の設置のときに説明がなかった。だから地域の人も知らなかった。
- 勤務条件は？
 - ▷ 16日勤務で13万4千円。
- 報酬が少なく、定住につながらないのでは。業務内容が重たすぎる、13万では受け手なんかいない。
 - ▷ 正直難航しているような状況。
- 雇用された人が、自覚を持って、地域に出向き顔が見れる体制の中で仕事をしていくような指導を行政からきちんとしてほしい。でないと続かないし、結果も出ないと思う。
 - ▷ これまでの応援隊員は応援隊自身が目標を設定した中で何をしてもよかった。だが、26年度からは目的が明確になっている。それに基づき、地域の中に入り、支援をしていただくことになる。

(2) まちづくりコーディネーター事業報告

《 質疑・意見 》

- ボランティア依頼は団体でないとできないのか？ホームステイ型のような形で農繁期に入ってもらえると助かる。
 - ▷ 他市の事例で、生産者の方の家に寝泊まりしながらボランティアするところもある。個別にご相談させていただきたい。

(3) わさび振興企画調整推進員事業報告

〈質疑・意見〉

- 取り組みをみると、生産に力を入れているように見受けられるが、生産が足りているのかいないのか、現状を教えていただきたい。
 - ▷ ものがないのにPRがかけられないということがあり、振興協議会の中でも議論を重ねてきた。それを受け、バランスも考えながらとにかく両方一緒に進めているというところ。
- 古くからのわさび農家と新規のわさび農家が一緒に取り組んでいこうという機運もできているようでよかった。1年ではなかなか成果も出ないが、2年目となる26年度は性根を入れて一つ一つ積み上げてもらいたい。

【意見交換会】

基金活用について

- 住民から、「基金が気がつけば残り少なくなっていた。ぜひ、活用について知りたいし、住民目線で基金事業の検証・評価し、意見を言わせてもらえnderうか」という声があった。ぜひ支所で検討していただきたい。
 - ▷ 基本的には公の場であるこの地域協議会で承認を得て執行しているということでご理解いただきたい。個別に質問してもらえれば説明はしていきたい。しかし、今意見があったということなので、自治会長会議等での基金事業の説明を検討していきたい。

財産区活用について

- 財産区の活用について、意見を聞く方法はいくらかあると思う。自治会長会議でもいいし、公聴会も一つの手法だと思う。いずれにしても広く意見を聞いて検討すべきと思う。
- 財産区についてはいえば、バイオエネルギーの問題がある。温泉がバイオボイラーを導入するということだが、その燃料となる資材の供給は町内で調達する仕組みが望ましい。
- 財産区の資源をいつどのような形で匹見町内に使っていくのか、管理会もあるが考えていただきたい。
 - ▷ 温泉のボイラーは薪ボイラーで検討している。一応循環型の利用を図ろうということで設計していく予定。また、地域の間伐材を有効活用しながら山の環境整備をして地域経済に結んでいきたい。